

- 3:1 ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。
- 3:2 すると、生まれつき足のなえた人が運ばれて来た。この男は、宮に入る人たちから施しを求めするために、毎日「美しの門」という名の宮の門に置いてもらっていた。
- 3:3 彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。
- 3:4 ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。
- 3:5 男は何かもらえると思って、ふたりに目を注いだ。
- 3:6 すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、
- 3:7 彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、
- 3:8 おどりが上がってまっすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。
- 3:9 人々はみな、彼が歩きながら、神を賛美しているのを見た。
- 3:10 そして、これが、施しを求めるために宮の「美しの門」にすわっていた男だとわかると、この人の身に起こったことに驚き、あきれた。
- 3:11 この人が、ペテロとヨハネにつきまといながら、非常に驚いた人々がみないっせいに、ソロモンの廊という回廊にいる彼らのところに、やって来た。
- 3:12 ペテロはこれを見て、人々に向かってこう言った。「イスラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。
- 3:13 アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち、私たちの父祖たちの神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたは、この方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。
- 3:14 そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、
- 3:15 いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。
- 3:16 そして、このイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の前で完全なからだにしたのです。
- 3:17 ですから、兄弟たち。私は知っています。あなたがたは、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたのです。
- 3:18 しかし、神は、すべての預言者たちの口を通して、キリストの受難をあらかじめ語っておられたことを、このように実現されました。
- 3:19 そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。
- 3:20 それは、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるためなのです。
- 3:21 このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。
- 3:22 モーセはこう言いました。『神である主は、あなたがたのために、私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる。この方があなたがたに語ることはみな聞きなさい。』
- 3:23 その預言者に聞き従わない者はだれでも、民の中から滅ぼし絶やされる。』
- 3:24 また、サムエルをはじめとして、彼に続いて語ったすべての預言者たちも、今の時について宣べました。
- 3:25 あなたがたは預言者たちの子孫です。また、神がアブラハムに、『あなたの子孫によって、地の諸民族はみな祝福を受ける』と言って、あなたがたの父祖たちと結ばれたあの契約の子孫です。

3:26 神は、まずそのしもべを立てて、あなたがたにお遣わしになりました。それは、この方があなたがたを祝福して、ひとりひとりをその邪悪な生活から立ち返らせてくださるためなのです。」

はじめに

先週、私たちは五旬節に語られた最初の説教がすべてイエスについてであったことを学びました。そして今日は、ペテロの二度目の説教もすべてイエスについてだったことを学びます。

使徒 2 : 43 によると、使徒たちは多くの奇跡や不思議なしるしを行いました。この言葉は、使徒 5 : 12 でも繰り返されています。

ここ 3 章にはその一例が記されています。

3 章はふたつの部分に分かれています。第一部は 1-10 節で、不思議な「しるし」についてです。

第二部は 11-26 節で、ペテロが語った説教です。

使徒の働きを学ぶ中で、私たちが忘れてはならないことがあります。それは、著者がこれを記した目的と意図です。

ルカ 1 : 1-4

1:12 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、

1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。

1:4 それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていただきたいと存じます。

使徒 1 : 1-8

1:1 テオピロよ。私は前の書で、イエスが行い始め、教え始められたすべてのことについて書き、

1:2 お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことにまで及びました。

1:3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。

1:4 彼らと一しょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

1:5 ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

1:6 そこで、彼らは、一しょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」

1:7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。

1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

使徒の働きは、ルカが書いたふたつの書のふたつめです。

その目的は、イエスの働きが選ばれた使徒たちをとおして聖霊によって継続されることを伝えるためです。

ですから、使徒の働きを学ぶにあたり、初代教会の時代にイエスの働きが続いていたことについて学んでいるという事実を忘れてはいけません。

現在も、主の働きは継続しています。そして、その方法についても変わらず、聖霊の働きによって、聖霊に満たされて神のみことばを告げる人々をとおして働きがなされます。

神の働きですから、働きが神に祝福されるためには、神のやり方でなされなければなりません。

OIC に神の祝福をいただこうと思えば、この重要な書に示された原則に従う覚悟が必要です。

教会のかしらはイエスです。それなのに、教会の運営について、自分は神よりもよくわかったつもりになると、聖書的原則を適用するのに非常に抵抗を感じるでしょう。私たちが神のみことばから学んでいるのは、私たち信徒と OIC という教会が神のみことばに則った姿を目指して必要な変化を取り入れるためです。そのことを意識して学びましょう。

1. しるし (3 : 1-10)

まず、聖書が語る「しるし」とは何かを理解する必要があります。

ヨハネ 20 : 30-31

20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。

20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

ヨハネは、「奇跡」という単語の代わりに「しるし」という言葉を使っています。

それはなぜでしょう。

ヨハネがその言葉を使ったのは、イエスが起こした奇跡がイエスの本性を示す目印のようなものだったからです。

しるしは、イエスが神の御子であり、人のかたちをした神ご自身であることを人々に示しました。

ヨハネは、イエスの行われたすべての奇跡がイエスの「神性」を示していると語ります。

同じように、使徒の働きで奇跡を起こされた聖霊も、福音のメッセージを示すために奇跡を起こされたのです。福音のメッセージがまことの神のみことばであると証明するためです。

では、使徒 3 章に登場するしるしについて学びましょう。

この箇所には、「ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った」とあります。

これは多くの人々が宮に集まる時間です。

人々が集まる時間は他に、午前 9 時と正午がありました。

毎日、生まれつき足の不自由な人が宮の門に運ばれてきました。

その門は、「美しの門」と呼ばれていました。

この門は、宮に入る東門で、「異邦人の庭」の近くでした。歴史学者によると、この門は、高さ 20 メートル以上もあるコリント様式の真鍮製でした。

これはとても対照的な光景です。歩くことも働くこともできない貧しい物乞いが、神の宮に入る壮麗な門の前に座っていました。礼拝する人々が祈りの時間にそこを歩いていきます。

その時間には、多くの人々が往来します。

足の不自由な人は、宮に入っていくペテロとヨハネを見て、施しを求めました。

ペテロは男性に、「私たちを見なさい」と言いました。男性は、お金がもらえると期待でしょう。けれども、お金よりもはるかに素晴らしいものを受け取りました。

使徒 3 : 6-8

3:6 すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、

3:7 彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、

3:8 おどりが上がってまっすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。

この奇跡は、イザヤ書 35 : 6 の成就です。そこには、「足のなえた者は鹿のようにとびはね、…」とあります。

この奇跡について、いくつか注目すべき点があります。

まず、奇跡そのものです。

男性は、生まれつき障がいを持っていました。そして、このとき、彼は40歳を超えていました。（使徒4:22）

この男性は徐々に癒されたのではなく、一瞬で癒されました。

突然、力がみなぎったのです。歩いたり、飛び跳ねたりしながら、神様を賛美しました。この奇跡が起こるためには、それまで存在していなかった筋肉細胞が作られる必要があります。また、脳は足にこれまでしたことのないかたちで動くように指示しなくてはなりません。この奇跡は、神の創造的回復という不思議な業です。（創世記1:1）

使徒の著者ルカは医者だったので、この奇跡がどれほど素晴らしいかよくわかっていました。それで、この男性が歩けるようになったことを3度も振り返っています。

次に注目すべき点は、ナザレのイエス・キリストの名によって奇跡がなされたことです。神がしるしと不思議なわざをおしてイエス・キリストの神性を示されたように、ここでは、イエスの働きを受け継いだ使徒たちを信任しておられます。

イエス・キリストがこの奇跡の源です。

主イエスが、イエスについて語ろうとする彼らとその語る内容について承認しておられたのです。

この男性が癒された奇跡は歴史上の事実であり、当時、福音のメッセージを信頼できるものとなりました。

今では、このような癒しの奇跡は必要ありません。私たちは、歴史上に起こった奇跡の話を聞いて、それを信じる必要があります。

私たちには、歴史上語られた神のみことばを信じる信仰が必要です。

最後に、群衆の反応に注目しましょう。

足が不自由だった物乞いが癒されたと知った人々は、びっくり仰天しました。

その男性がおそらく20年以上もその場所にいたことを考えれば当然でしょう。

もしかすると、彼の父親や友人は、彼が20歳のときからそこに連れて行っていたのかもしれない。

想像してみてください。人々は、祈るために宮に毎日通っていて、20年もの間、物乞いをする足の不自由な人の前をいつも通り過ぎていました。そしてある日突然、その人が立ち上がって、飛び跳ねながら神を賛美しているのです。

人々はその男性のことを思って大喜びしたでしょう。

素晴らしい奇跡ですが、それには理由がありました。

群衆に福音を告げる機会をペテロに与えることです。

機会があれば、ペテロはそれをしっかりとつかみました。

2. 説教 (11-26 節)

足の不自由な男性は、癒やされたことで多くの人々の注目を浴びました。そのおかげで、ペテロはしっかりと聞いてくれる群衆に向かって福音を伝えることができました。

まずペテロがしたのは、自分に対する注目を、神に向けることです。群衆は、神を礼拝するために宮に来ていたのですから。

ペテロは神にすべての栄光を帰すことをまず考えていました。

そして、説教を語る中で、群衆にいくつかのことについて呼びかけます。

a) 人々の罪を指摘する。(12-14 節)

ペテロは、そこにいた人々の父祖であるアブラハム、イサク、ヤコブの神とイエスを結びつけました。

人々が敬愛するお方とイエスを結びつけることで、彼らの罪をさらしました。

イエスが神から遣わされたのなら、人々は神を礼拝しているのに、イエスを死刑にしろと言って犯罪者の釈放を求めたのですから、大問題です。

ペテロは、「(あなたがたは)このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し」と言いました。(14 節)

彼らの罪の本質は、神のみことばに対する不従順でした。

宮で神を礼拝する人々は、神のみことばを知っていました。それなのに、神のみことばにイエスを認識しなかったのです。
旧約聖書には、イエスの降誕を指し示していると認識できる預言が少なくとも 40 箇所あります。
ではなぜ、人々はイエスを救い主だと気づかなかったのでしょうか。なぜ、イエスを十字架につけ、犯罪者の釈放を求めてしまったのでしょうか。
一言で答えるなら、彼らの心が悪かったので、霊的に盲目だったからです。
世界中の現代人もまったく同じです。
人々は、イエスがどういうお方で、どんな教えをしておられるか、認めようとしません。それは、その心が悪いからです。
悪い心が人々を盲目にし、神のみことばの真理を理解できないようにしてしまうのです。
当時の群衆の心の中にあつた罪は、神の前で悔い改めず、イエスのあわれみを信じない現代人の心の中にある罪と何ら変わりありません。
エレミヤ 17 : 9-10 は語ります。

17:9 人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。
17:10 わたし、【主】が心を探り、思いを調べ、それぞれその生き方により、行いの結ぶ実によって報いる。

b) イエスとイエスの復活に関する証言 (15-16 節)

彼らはイエスを殺してしまったが、神はイエスを死からよみがえらされた、とペテロは群衆に言いました。そして、彼自身をはじめとする弟子たちは、イエスの復活の証人だと宣言しました。
ペテロはさらに、復活のイエスを信じる信仰をとおして、足の不自由な男性が癒やされたのだと言いました。
つまり、男性の癒やしは、イエスの復活の証拠であり、聖霊による力がそのような奇跡を起こしたことを証明しているということです。
イエスを亡き者にしようという人々の試みを神はくつがえし、預言のことばを成就されました。
神は、足の不自由な男性を癒やすことで、ご自身の力を現されました。それは、ペテロが語るメッセージに疑いの余地を持たせないためです。

c) あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。(17-26 節)

ペテロは説教の最後の部分で、いくつかの事を明らかにしています。

a) 無知は罪の言い訳にならない。(17-19 節)

群衆はイエスが神であると知らずにイエスを死なせてしまいました。ペテロはそれを承知の上で、罪を悔い改めるように呼び掛けました。
17 節で彼らが無知であったと言ったのは、罪の言い逃れをさせるためでも、赦しが必要ないと言うためでもありません。それは、赦していただくことができると教えるためです。
ペテロはユダヤ人たちに、旧約聖書の教えを思い起こすように促します。
その教えは、過失による罪と故意に犯した罪とを区別しています。

民数記 15 : 22-31

15:22 あなたがたが、もしあやまって罪を犯し、【主】がモーセに告げられたこれらの命令のどれでも、

15:23 【主】が命じられた日以来、代々にわたって【主】がモーセを通してあなたがたに命じられたことの一つでも行わないときは、

15:24 もし会衆が気づかず、あやまってしたのなら、全会衆は、【主】へのなだめのかおりのための全焼のいけにえとして、若い雄牛一頭、また、定めにかなう穀物のささげ物と注ぎのささげ物、さらに雄やぎ一頭を罪のためのいけにえとして、ささげなければならない。

15:25 祭司がイスラエル人の全会衆の贖いをするなら、彼らは赦される。それが過失であって、彼らは自分たちの過失のために、ささげ物、【主】への火によるささげ物、罪のためのいけにえを【主】の前に持って来たからである。

15:26 イスラエル人の全会衆も、あなたがたのうちの在留異国人も赦される。それは民全体の過失だからである。

15:27 もし個人があやまって罪を犯したなら、一歳の雌やぎ一頭を罪のためのいけにえとしてささげなければならない。

15:28 祭司は、あやまって罪を犯した者のために、【主】の前で贖いをしなければならない。彼はあやまって罪を犯したのであるから、彼の贖いをすれば、その者は赦される。

15:29 イスラエル人のうちの、この国に生まれた者にも、あなたがたのうちにいる在留異国人にも、あやまって罪を犯す者には、あなたがたと同一のおしえがなければならない。

15:30 国に生まれた者でも、在留異国人でも、故意に罪を犯す者は、【主】を冒瀆する者であって、その者は民の間から断たれなければならない。

15:31 【主】のことばを侮り、その命令を破ったなら、必ず断ち切られ、その咎を負う。」

神と神のみことばの教えを知らないからと言って罪の言い逃れはできません。また、神の聖なるご性質を犯す罪が無知を理由に赦されるわけでもありません。このことを私たちは今日、しっかり理解しましょう。

これらの罪がわかったら、そのことを悔い改めなくてはなりません。

自分から進んで罪を犯し、神のみことばを軽蔑する人は、神から断ち切られ、その人は罪ある者となります。

民数記の教えを書かれたのと同じ神が今も生きておられ、弟子たちのうちに住まわれる聖霊をとおして働いておられるのです。

b) 悔い改めの必要性と赦しの祝福 (19 節)

先週、ペテロのひとつめの説教で悔い改めについて取り上げましたが、この二度目の説教でも悔い改めに触れています。

ペテロやパウロといった初代の説教者の教えからはっきりとわかるのは、「悔い改め」が説教の最初に語られたことです。

悔い改めるなら、神に立ち返る前にまず罪に背を向けなくてはなりません。

悔い改めとは、聖なる神との関係における自分についての考え方を改めることです。罪とは根本的に、神の権威を無視し、神のみことばによる支配を受けずに自分勝手な道を行くことです。

自分の行動や生き方について何が正しくて何が間違っているかを決める権利は、私たちにはありません。

神と神のみことばがそれを決めるのです。

自分の考え方や生き方を正当化するように神のみことばを勝手に解釈することはできません。

神のみことばの解釈は、神のみことばがします。

聖書には 66 の書があり、それはすべて、神の靈感によるものです。

テモテ第二 3 : 16-17

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

3:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。

ですから、神がどういうお方で、神のみことばは何を教えているのかを知りたいなら、聖書全体を学ぶ必要があります。

聖書全体を知って、聖書の全体像がわかります。

悔い改めるには、考え方を改め、神のみことばの教えを心にも思いにも当てはめていく必要があります。

これが、イエスの教えられた福音です。

マルコ 8 : 34-38

8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

8:35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。

8:36 人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。

8:37 自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。

8:38 このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」

人が悔い改めたら、その人は変えられ、その人の罪は拭い去られたとペテロは言います。

つまり、罪を悔い改めてイエスに赦しを求めたなら、赦しをいただけるということです。イエスがその罪も罰も受けてくださるからです。

コリント第二 5 : 20-21

5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。

こうして、罪の重荷を降ろせます。罪は拭い去られ、取り去られます。

私たちは赦されて、神の家族の一員として新生します。神の子となるのです。

神の約束が自分のものとなります。

天国の国籍をいただいた時から、地上は私たちの故郷ではなくなります。

あなたは、罪の赦しを心から求めていますか。もしそうなら、まず悔い改めが必要です。

赦しを得る最終的な祝福について、ペテロは、「主の御前から回復の時が来て」と表現しています。

「主の御前から回復の時が来て」とは何を指しているのでしょうか。

まず、詩篇 16 : 11 を読みましょう。

詩篇 16 : 11

16:11 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

喜びとは、私たちを取り巻く状況に左右されない、心の状態です。

ですから、私たちの心が神との正しい関係にあれば、この上なく素晴らしい喜びに満たされることが出来ます。

神の御前にいることは、地上でもっとも素晴らしい体験です。

神の御前にいることで、「平安」も心にもたらされます。

けれども、間違っただけではありません。これは、世間で言う平和や平安とは違います。

ヨハネ 14 : 25-27

14:25 このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

神の御前には素晴らしい「平安」があります。

その「平安」をあなたは経験したことがありますか。

もしまだなら、「悔い改め」ることから始めましょう。

まとめと適用

では、神のみことばから私たちの生活に当てはめられる今日の教えはなんでしょう。

1. 現代は、救いを宣べ伝える福音のメッセージを本物であると証明するために、目に見える癒しの奇跡は必要ありません。何よりも偉大な奇跡は、神の聖霊によって心が変わることです。心が変わると、どんな状況でも、喜びと平安に満たされます。
2. 悔い改めて、イエスと十字架の業を信じることによって、心は変わられます。罪の赦しを得る前に、まず悔い改めが必要です。あなたは罪を悔い改めましたか。
もし、神の聖霊があなたの心に語りかけておられるなら、今日がそのチャンスかもしれません。罪に背を向け、イエスをとおして罪をいただくために神に立ち返りましょう。
3. 神のみことばを知ることは、神を知ることです。神のみことばを毎日読むことが大切です。神のみことばに従うことで、信徒個人の人生にも、教会全体にも祝福がもたらされます。